



JAMCA ニュース

No.106

2020年7月1日

発行
協会事務局
編集事務局全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

しなやかな心を持つ逞しい若者を育てる

学校法人ホンダ学園 常務理事
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

嶋津 和真

最近、「レジリエンス」という言葉を目にする機会が多くなりました。

レジリエンス (resilience) とは、「弾力」や「復元力」を意味する言葉で、元々は外力によって歪んだ物体がもとの形に戻る力を指し、物理学や工学で使われてきました。そこから転じて、最近ではストレスに対する個人の対処能力、困難な状況に置かれてストレスを受けたときに、そこから立ち直り成長する能力を指す言葉として使われるようになったようです。ストレスから受ける影響を抑制する「心の強固さ」とは異なり、ストレスによって受けた影響と向き合い、自らを状況に適応・変化させて回復し次に向かって進んでいく「心のしなやかさ」がレジリエンスです。

私たちを取り巻く環境は、スピードも振幅もこれまでに経験したことがないほど大きく変化を続けています。自動車産業もCASEを中心とした技術革新の急速な進展により、100年に一度の大転換期にあると言われていています。また、日本の経済社会が高度成長から成熟期に入るとともにグローバル化が進展し、それとともに人々の価値観も多様化しています。そのような中、私たちの学校では多くの若者たちが、これからの自動

車業界で活躍すべく日々学んでいます。今日学んだ技術が10年後・20年後にそのまま使える保証はありません。学校で身につけた技術や新たな物事に取り組む姿勢をベースとして、常に自分の技をアップデートし続ける必要があるでしょう。社会に出るとこれまで以上に多様な人たちと関わりを持つことになり、価値観の相違に悩むこともあるでしょう。彼らには、これら多種多様なストレスとうまく向き合い、折れることなく前へ進んでいくためのレジリエンスを身につけてほしいと思います。

では、私たちは日々の学校生活を通じて彼らのレジリエンス獲得の手助けをすることができるでしょうか。レジリエンスの構成要素やその定義などについては、研究者やコンサルタントによって多く示されています。これらから、私たちができるとして次のようなことがあると思います。

- ・学生たちが自ら考え、行動し、その結果を振り返る場をできるだけ多く設ける。
- ・結果をもとにプロセスを振り返り、試行錯誤の中で成功に到達する手助けをする。
- ・様々な「出番」を用意し、一人でも多くの学生に得意技を活かす舞台を与える。
- ・学生間、学生と教職員間のコミュ

ニケーションを活性化する。

- ・学生間の協力関係を創出する。
- 特に目新しいものはありませんが、いずれも手間がかかりますし、進め方に工夫が必要なものです。しかし、学校生活全体を通じて成長の機会をつくり、卒業後に自信をもって逞しくキャリアを切り拓いていくことができる若者を育てることも、私たち教育機関に課せられた使命の一つと考えています。

折からの新型コロナウイルスによる感染拡大に伴って、私たちの生活や学校運営も大きな影響を受けています。スペイン風邪以来の、こちらも100年に一度規模のパンデミックであり、まさに私たち一人ひとりのあるいは組織のレジリエンスが問われている状況ではないかと思えます。この号が発行される頃には状況が沈静化し、新常态の中で社会活動が再開されていることを祈りつつ。

CONTENTS

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 2面 | 若者世代も注目する「クラシックカー」を取り巻く環境とは |
| 3面 | クルマ大好き！
活躍!! 女子! 卒業生 |
| 4面・5面 | 未来の安全を守る自動車整備とは…
「分解整備」から「特定整備」へ |
| 6面・7面 | 協会トピックス・
アイドルタイム・地区通信 |
| 8面 | 私の教材活用・お知らせ・
編集後記 |